

自立や参加、尊厳など『人権尊重のまちづくり』に向けて 一歩踏み出そう！



▼**報告者**
③ 部落差別の早期解決をめざして
松井満洲男さん
【鳥取県人権教育推進協議会会長】



▼**報告者**
② 誰もが大切にされる共生社会のために
（参加と自立）
林原正彦さん
【セルプひの主任サポーター】



▼**報告者**
① 孤立しない高齢化社会のために
（参加／自立／ケア／自己実現／尊厳）
青砥昭雄さん
【日野町社会福祉協議会会長】



▼**コーディネーター**
其山守美さん
【日野町教育委員会指導主事】

人権啓発講演会終了後、引き続き、町人権・同和教育研究集会が開かれ、研究主題の『さまざまな地域課題から、人権尊重社会の仕組みを考えよう』助け上手、助けられ上手になるうゝを実現するために、3人が報告提言を行いました。

まず、町社会福祉協議会会長の青砥昭雄さんが『孤立しない高齢化社会のために』と題して、同協議会が行っている地域福祉事業から見えてきたものを報告。高齢化社会への対応策として、①ふれあいサロンを開いてもらうために啓発活動を行う、②困難な作業を行うなど生活を支えるライフサポート事業の充実、③安否確認を含めた福祉弁当の継続などを上げました。

課題として、暮らしのさまざまなニーズに対応する人材や体制の整備やボランティアの高齢化、財源の確保や当事者の負担などが見え、それを解決するにも地域や地域住民との協力連携が必要と訴えました。

次に、セルプひの主任サポーターの林原正彦さんが、

『誰もが大切にされる共生社会のために』と題し、障がいがあっても、参加し自立を目指す地域社会への提言を行いました。セルプひの日ごろから作業を通して地域とかかわり、利用者の喜びややりがいにつながっていること、技術を取得することで自信が持て、仕事ができることを報告しました。その中で、利用者の生活を支える工賃の確保や安心できる地域づくりなど、課題も訴えました。

会場からは「町民が温かく迎えているか」「仕事はしやすいか」などと質問。林原さんは「他町では受け入れてもらえないことがあったが、日野町ではスムーズに受け入れてもらっている。これからも地域に知ってもらうことで、溶け込んでいける」と今後も地域と連携していくことを会場と確認し合いました。

このほかに、鳥取県人権教育推進協議会会長の松井満洲男さんが『部落差別の早期解決のために』と題し、現在の人権教育について説明。一人一人が人権教育に関心を持ってほしいと訴えました。

小地域座談会を全自治会で

地域全体で考えていかなければならない問題・課題を話し合ひましょう

小地域座談会は誰もの人権が尊重された社会づくりをめざして、みんなで話し合う活動です。

私たちの暮らしの中にはさまざまな人権課題があります。また、それが地域の課題にもなっています。人はどんな状況や状態になっても大切にされ、安全・安心に暮らすという権利がありますが、同時に私たちにはそのような社会を創造していくための社会の構成員としての活動が求められます。

小地域座談会の話し合いは、その大切な活動のひとつです。言い換えれば私たちの生き方や暮らし方、また社会の仕組みを良くしていくための地域づくり活動そのものと言えます。昨年度は町内 51 自治会のうち、48 自治会で開かれ 480 人が参加しました。今年度は全自治会で開かれることを願っています。



小グループでの活発な意見交換

【テーマ】

さまざまな地域課題から、人権尊重社会の仕組みを考えよう

～助け上手、助けられ上手になろう～



教育関係者・町職員が地域を訪れて進める

高齢化および過疎化により、さまざまな暮らしの課題があります。中でも、高齢者の独り暮らしのや高齢者だけで暮らす世帯の増加、また、認知症や加齢に伴う障がいや病気など、当事者はもとより大きな社会不安となっています。町として高齢化への対応も重要な施策の一つですが、地域で共に暮らす私たちの支え合いや仕組みづくりも大切です。

小地域座談会では、このような高齢化社会の中でも『一人一人が大切にされ、誰もが安心・安全に暮らせる社会づくり』を町民みんなで進めようと、2010 年度から 3 年間は同じテーマで進めています。

今年度は 3 年間の区切りとして一定の成果をめざし、どうしたら『助け上手、助けられ上手』の地域やまちづくりができるか、具体的な活動や仕組みづくりについて前向きで明るく、率直な意見交換をお願いします。

2011 年度の座談会で出された意見など（一部）

▶近所の人倒れた時など緊急時の連絡の取り方について、遠慮せず助けを呼ぶことを恥ずかしくない。▶助け上手、助けられ上手を実現するためには、普段の近所づきあいを大切に、認知症をかくしがちになるが、家族や介護サービスで解決せず近所で支え合うことが理想。▶近所づきあいのコミュニケーションについて、声かけやあいさつが重要。日ごろの付き合いで信頼関係を作る。▶声をかけても出てこない人がいるので、気にかけて覗いたり、集まって話し合う機会を作り孤立化を防ぐ。▶何かあったら、民生委員や自治会長に知らせるようにする。▶介護する人も高齢者になってきているので、介護する人が抱え込まず、まず相談すること。問題が軽減できると思う。